

令和6年度　理知の杜日本語学校仙台校自己点検・評価		
◆評価方法 A「達成されている」若しくは「適合している」 B「概ね達成されている(適合している)が、不十分なところが残っている。」 C「未達成(未適合)だが、達成若しくは適合になるために取り組んでいる。」 D「未達成若しくは適合していない。今後の課題である。」 X該当しない。		
理念・教育目標・育成する人材像		
1.理念 ・国際化社会において、さらなるグローバル化の進展が見られる中、必要不可欠なことは、国家間の平和的かつ友好的な関係の構築であり、その実現には、民間(一般)レベルでの深い相互理解も大きな役割を担うことが必要であると考えている。		
2.教育目標 ・日本語の修得を希望する海外の優秀な人材を受入、日本語教育を通して、日本に対する深い理解と調和のとれた国際人を育成し、日本の　将来の発展に貢献できる人材を育成する。		
3.育成する人材像 ・諸外国の言語、文化、習慣を理解し、受容し、調和していける人材がこれからより一層求められる。日本語で「話す」「聞く」「読む」「書く」ことを修得し、不自由なくコミュニケーションが図れるような能力を育成すると同時に、日本の「文化」「習慣」等も教授し、日本に対する深い理解を持てるような人材を育成する。		
自己点検・評価項目		
1.理念・教育目標		
1-1	理念が、教職員にしっかり周知されているか。	A
1-2	教育目標が、教職員にしっかり周知され、その実現に向けて鋭意努力しているか。	A
1-3	育成する人材が、社会の要請に合致しているか、そして、人材像が教職員及び学生に周知されているか。	A
課題・改善点		
・コミュニケーション能力の向上はみられるものの、日本の文化や習慣への理解については、もう少し深めていきたい。 ・理念や目標は、大変重要であることから、常日頃から全職員で共有する機会を設けて、意識しながら学生の指導にあたりたい。 ・理念や目標は、授業を担当していただいている非常勤講師や寮生活を支えていただいている管理人に対しても理解を深めていただく必要があるため、講師会や寮管理員と学校との協議会などにおいて、研修会等をもって理解を深めていきたい。 ・これまで掲げてきた理念や教育目標を踏まえて、認定日本語教育機関の認定制度の趣旨をしっかり受け止め、教育の質の向上及び留学生から信頼される学校の創造を念頭に、理念や教育目標を見直し、全職員で検討し作成していきたい。		
2.学校運営		
2-1	理念・目標・目的に沿った運営方針や事業計画が策定されているか。	A
2-2	組織運営や人事、財務管理規定が整備されているか。	B
2-3	教職員の採用・定員管理・研修及び評価は適切に行われているか。	A
2-4	予算編成が適切に行われ、執行ルールが明確であるか。	B
2-5	外部からの情報収集が効率的に行われ、かつ、共有化する仕組みがあるか。	A
2-6	意思決定が組織的に行われ、かつ、効率的に機能しているか。	A
2-7	学生、入学志願者及び経費支弁者に対して、理解できる言語で情報提供を行っているか。	B
2-8	教職員のコンプライアンス意識を高めるための取組を行っているか。	B
2-9	業務の見直し及び効率的な運営の検討が組織的に行われているか。	A
課題・改善点		
・校内では組織的に運営が行われているが、法人事務局とももう少し綿密に連携しながら教育活動を推進していきたいと考える。 ・理知の杜グループ校との情報交換会が令和7年度から定期的に開催されることが決定したことは大きな意味があると考ええる。 ・組織運営、財務管理、予算編成などについて、事務局が各校の要望や実情を踏まえ、その上に立って予算書を作成しようとする取組は評価できる。 ・外国語を話せるスタッフの採用について、令和7年度の計画に盛り込まれたことは、留学生のためにも一歩前進であると考える。		
3.教育活動		
(1)教育活動の計画		
3-1-1	日本語教育機関の告示基準第六（教育課程）は守られているか	A
3-1-2	理念・教育目標に合致したコース設定をし、目標達成に向けたカリキュラムを体系的に編成されているか。	A
3-1-3	国内、または国際的に認知されている熟達度の枠組みを参考にしてレベル設定をしているか。	A
3-1-4	教育目標に合致した教材を選定しているか。	A
3-1-5	補助教材、生教材を使用する場合は出典を明らかにするとともに、著作権法に留意しているか。	A
3-1-6	教育内容及び教育方法について教員間で共通理解が得られているか。	A

課題・改善点		
・ 学生の実態及び教育目標に合致した教材を選定し授業を展開してきた。そのため、学生の日本語能力が着実に向上したことは大きな前進である。		
(2)教育活動の実施		
3-2-1	授業開始までに学生の日本語能力を試験等により判定し、適切なクラス編成を行っているか。	A
3-2-2	教員に対して、担当するクラスの学生の学習目的、編成試験の結果、学習歴、その他、指導に必要な情報を伝達しているか。	A
3-2-3	学生が到達すべき日本語能力の目標が明示されているか。	A
3-2-4	授業記録及び出席簿を備え、正確に記録しているか。	A
3-2-5	理解度・到達度の確認を実施期間中に行っているか。	A
3-2-6	特定に支援を必要とする学習者に対して、その分野の専門家の助言を受けているか。	なし
課題・改善点		
・ 特別な支援を必要とする学習者であるかどうかの判断は難しいが、現時点では、専門家の助言を必要とはしていない。 ・ 学生の能力を正しく評価するとともに、学生の気持ちを大切にしながら、意欲の向上を目指す学級編成を行った。		
(3)教育活動を担う教職員		
3-3-1	校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容及び責任と権限を明確に定めているか。	A
3-3-2	教育の指導力向上のための取組を行っているか。	A
3-3-3	生活指導責任者が特定され、その職務内容及び責任と権限を定めているか。	A
3-3-4	入管事務担当者が特定され、その職務内容及び責任と権限を定めているか。	A
3-3-5	教員及び職員の採用方法及び雇用条件を明文化しているか。	A
3-3-6	教育機関としての信頼を高めるため、倫理観、振る舞い、ハラスメント防止等に関する研修を行っているか。	A
3-3-7	教員及び職員の評価を適切に行っているか。	A
課題・改善点		
・ 個々の意識は高いが、統一した意識を持つために研修の機会があるとより意識を高めることができるのではないかと考えている。 ・ 現在まで、教育機関としての振る舞いなど研修がないため、ビデオ研修などでもいいのであればより良いのではないかと思う。 ・ 教職員への評価制度や評価基準が明示されれば、一人ひとりのスキルアップを目指す上で有効であると考ええる。 ・ 入管担当者やエージェント担当者がとても頑張ったことは大いに評価できる。 ・ 法人事務局と連携し教職員研修の充実が求められると考える。オンラインでもよいと思うので、全職員向けのコンプライアンスの研修等を充実させていきたい。		
4.学修成果		
(1)成績判定と授業評価		
4-1-1	判定基準及び判定方法が明確に定められ適切に行われているか。	A
4-1-2	成績判定結果を的確に学生に伝えているか。	A
4-1-3	判定基準及び判定方法の妥当性を定期的に検証しているか。	A
4-1-4	学生による授業評価を定期的を実施しているか。	B
4-1-5	授業評価の結果が教育内容や方法の改善、教員の教育能力向上等の取組に反映されているか。	B
課題・改善点		
・ 学生がどんな授業を求めているのか探るためにも、ぜひ学生からの授業評価を実施していきたい。また、評価を踏まえて、自らの授業を見直し、指導方法の改善にも生かしていきたい。		
(2)教育成果		
4-2-1	入学から修了・卒業までの学習成果を記録、保管し、適正に管理しているか。	A
4-2-2	修了・卒業の判定を適切に行っているか。	A
4-2-3	日本留学試験、日本語能力試験等の外部試験の結果を把握しているか。	A
4-2-4	卒業又は修了後の進路を把握しているか。	A
4-2-5	卒業生及び修了生の状況を把握するための取組を行い、進学先等での状況や社会的評価を把握しているか。	A
課題・改善点		
・ 卒業生及び修了生の卒業後の状況を把握するための具体的な取組をおこなっていないため、今後、進学先等での社会的評価をリサーチする中でフィードバックし、今後の指導に生かしていきたい。		

(3)進路に関する支援		
4-3-1	学生の希望する進路を適切に把握しているか。	A
4-3-2	進学等の進路に関する最新の資料が備えられ、学生が閲覧できる状態にあるか。	B
4-3-3	入学時から一貫した進路指導を行っているか。	A
課題・改善点		
・進路指導に関しては、クラス毎に対応していたため、専門学校への問い合わせの重複もあったが、担当を分けるなど改善を図った。 ・様々な資料は揃えられているが、学生が自由に閲覧できるような場所がないため、今後は、学生の利便性を図るために、配置などを工夫したり、棚などを設置したり考えていきたい。 ・学生の気持ちを大切にしながら、本人が納得するように、丁寧に進路指導を行った。		
5.学生支援		
(1)学生支援		
5-1-1	学生支援計画を策定し、支援体制が整備されているか。	A
5-1-2	学習相談に対する支援体制が整備されているか。	A
5-1-3	進路に対する支援体制が整備されているか。	A
5-1-4	留学生活に関するオリエンテーションを入学直後に実施し、また、在籍者全員を対象に日本での生活指導等の支援体制が整備されているか。	A
5-1-5	住居支援を行っているか。	A
5-1-6	アルバイトに関する指導及び支援を行っているか。	A
5-1-7	健康管理、衛生管理について支援する体制を整えているか。	A
5-1-8	対象となる学生全員が国民健康保険に加入し、併せて留学生保険に加入しているか	A
5-1-9	重篤な疾病や傷害のあった場合の対応及び感染症発生時の措置を定めているか。	A
5-1-10	交通事故等の相談体制を整備しているか。	A
5-1-11	火災、地震、台風等の災害発生時の避難方法、避難経路、避難場所等を定め、避難訓練を定期的実施しているか。	A
5-1-12	気象警報発令時の措置を定め、教職員及び学生に周知しているか。	B
課題・改善点		
・事故防止に向けて、新入生へのオリエンテーションや長期休み前にオリエンテーションを行い注意喚起を図ってきたが、これからも継続して事故防止に努めていきたい。 ・学生寮において、キッチンの使い方のルールを定着させるために、常日頃から指導を重ねてきているが、ルールを守れない学生に対しては、指導の徹底を図るための具体的な対策が必要であると考える。 ・留学生保険については、現在も学校として加入しているが、今後、より様々な事態に対応し得るプランへの見直しも継続検討していきたいと考える。 ・健康管理、衛生管理、交通事故などの対応及び相談を丁寧に行った。 ・災害時マニュアル等は、現実とそぐわない内容もあるかもしれないので、毎年見直し、実際に即した内容に改善していきたい。		
(2)入国・在留に関する指導及び支援		
5-2-1	入管事務担当者は、研修受講等により適切な情報取得を行っているか。	A
5-2-2	入管法上の留意点について学生への伝達、指導等を定期的に行っているか。	A
5-2-3	在留上、問題のある学生への個別指導を行っているか。	A
5-2-4	不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者等を発生させないための取組を継続的に行っているか。	A
5-2-5	過去２年間、不法残留者、資格外活動違反者及び犯罪関与者を発生させていないか。	A
課題・改善点		
・アルバイト等でオーバーワークについての法的根拠の理解が、学生に定着してきているように感じるが、引き続き、今後も、法律を遵守するように学生への指導を徹底していきたい。 ・法律遵守の大切さを日頃から丁寧に指導している。また、学生との信頼関係をしっかりと築き、疎外感を持たないように努力している。		
6.教育環境		
6-1	安定的に教育活動を継続するための校地及び校舎が整備されているか。	A
6-2	教室、その他の施設は「日本語教育機関の運営に関する基準」及び「日本語教育機関の告示基準」に適合しているか。	A
6-3	教室内は、十分な照度があり、換気がなされているとともに、語学教育を行うのに必要な遮音性が確保されているか。	A
6-4	教育内容及び学生数に応じた図書やメディアが整備され、常時利用可能であるか。	A
6-5	教員及び職員の執務に必要なスペースを確保しているか。	A
6-6	同時に授業を受ける学生数に応じたトイレを設置しているか。	A
6-7	廊下、階段等は、緊急時に危険のない形状であるか。	A
課題・改善点		
・火事や地震があった場合、階段が、一方向しかなく、１～２人しか通ることができないため、緊急時避難時の安全性に危惧している。そのため、すでに既設されている非常用避難はしごの利用についての研修を深め、実際の災害に即応できる対応策を考えていきたい。 ・学生の自主学習や相談など決めの細やかな指導を可能にするためには、教室数に余裕がほしいところである。		

7.入学者の募集と選考		
7-1	入学者の募集は、学生の受入方針に基づき適切に行われているか。	A
7-2	入学志願者に本校の学校情報、求める学生像、及び応募資格と条件等が正確に伝えられているか。	A
7-3	海外の募集代理人（エージェント等）に正確な情報提供を行うとともに、その募集活動が適切に行われていることを把握しているか	A
7-4	入学選考基準及び方法が明確化され、適切な体制で入学選考を行っているか。	A
7-5	入学志願者の学習能力、勉強意欲、日本語能力等を確認するとともに、受け入れるコースの教育内容が志願者の学習ニーズと合致することを確認しているか。	A
7-6	入学検定料，入学金，授業料，その他納付金の金額及び納付時期，並びに学費以外に入学後必要になる費用が明示されているか。	A
7-7	関係諸法令に基づいた学費返還規程が定められ，公開されているか。	A
課題・改善点		
・入国後に能力差が表面化してくるので、入学志願者の面接時の能力の測り方について検討していきたい。 ・入学選考時及び入学後も適正に指導できた。		
8.財務		
8-1	財務状況は、中長期的に安定しているか。	B
8-2	予算・収支計画の有効かつ妥当なものとなっているか。	B
8-3	適正な会計監査が実施されている。	A
8-4	財務情報の公開の体制はできているか。	A
課題・改善点		
・令和7年度の予算計画が開示されているので、予算に応じて、寮の設備投資や学生への支援及び教室の環境の改善を実現していきたい。		
9.法令遵守		
9-1	出入国管理及び難民認定法令等の遵守と適切な運営がなされているか。	A
9-2	個人情報保護のための対策をとっているか。	A
9-3	地方出入国在留管理局，その他関係官公庁等への届出，報告を遅滞なく行っているか。	A
課題・改善点		
・出入国管理局への届け出は遅滞なく行っている。		
10.地域貢献・社会貢献		
10-1	日本語教育機関の資源・施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	B
10-2	学生ボランティア活動への支援を行っているか。	C
10-3	公開講座等を実施しているか。	D
課題・改善点		
・地域住民の方からスイカをいただきお礼にお手紙を送るなどの交流はあったが、常時、地域住民の方々との直接的な交流の機会がないため、今後は、ボランティア活動など、地域社会に貢献できるような活動を考えていきたい。 ・認定日本語教育機関申請に向け、地域の方々とどのように関わっていくべきかも踏まえ、検討していく必要があると考える。 ・学校外でのボランティア活動をする機会があれば、社会とのつながりも生まれると思うので、そういった機会を確保していくことも必要かと考える。		